



プレーを通して感動や元気を与えたい

H. C. 栃木日光アイスバックス 副キャプテン

ふるはし まくる
古橋 真来 選手 (日光市出身・在住)

東中学校を卒業後、日光明峰高校に進み、3年生のインターハイで北海道の高校に負けたことを機に、「日本一」になることを決意し中央大学に進みました。大学では周囲の上手な選手と切磋琢磨しながら、プロになるためにすべきことを意識し、効率的な練習に

プロを目指したきっかけは？

幼い頃、私の実家の旅館を宿舍とする王子製紙のアイスホッケーチームの選手の姿を見てかっこいいと思いました。また、私自身、3歳頃に親の勧めで地域のアイスホッケーチームに入り、自然と競技を始めました。

アイスホッケーを始めたきっかけは？

幼い頃、私の実家の旅館を宿舍とする王子製紙のアイスホッケーチームの選手の姿を見てかっこいいと思いました。また、私自身、3歳頃に親の勧めで地域のアイスホッケーチームに入り、自然と競技を始めました。

なぜアイスバックスを選んだのですか？

小さい頃から見ていたチームで愛着がありました。大学2年の時に日光で開催された栃木国体の試合では、市民の皆さんの強い応援を受け、「この場所でもまたプレーしたい」と思いました。当時は、地元出身選手が少なく自分が地元を盛り上げたいとも思いました。

現在のチームとご自身の状況は？

チームは、新人が溶け込みやすく、全員が力を発揮できるような良い雰囲気練習を行っています。選手、スタッフ間でもよく意見を出し合いコミュニケーションをとっています。

私自身は年齢的にも若手の模範となるように心掛けています。若手の前でいいプレーができるように、いい意味で自分自身にプレッシャーを掛けながら成長していきたいです。また、日本代表での経験などを含め、私の持っているものを若手に伝えていき、チーム全体でレベルアップしたいです。

アイスホッケーの魅力は？

一番激しく動き、展開が早いスポーツだと思っています。また、屋内で行うため、天候や気温に左右されずに観戦できます。寒

今季の目標は？

いいイメージがありますが、防寒対策をすれば安心して観戦できるので、気軽に会場に来てほしいです。

「プラオレ！」への期待は？

今後の目標としては、自分の限界まで現役を続け、引退後は指導者などとして日光でアイスホッケーに関わり続けたいですね。

♡ インタビューを終えて

大学卒業後、アイスバックス一筋の古橋選手。練習後に市内のランチ巡りをしたり、休日によく奥日光に遊びに行ったりするそうです。

また、お話の端々から、プレーで日光の人たちに元気を与えたいという「日光愛」を感じました。会場で背番号18を探して応援しましょう！